

平成24年度入学試験問題（後期日程）

小論文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問　題

図1～5は、若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）についての回答である（平成22年7月、内閣府）。これらの図に関する、以下の各問い合わせなさい。

問1 図1～2は、小中学校時代の学校および家庭での経験、図3～4は自分にあてはまることに関する調査結果である。図1～4の調査結果全体から読み取れる、ひきこもり群（\*1）とひきこもり親和群（\*2）の特徴について800字以上、1000字以内で述べなさい。

問2 図5は、若者が不安を感じていることに関する調査結果である。ひきこもり群とひきこもり親和群が感じている不安の特徴を述べた上で、それぞれの群が不安を引き起こす要因について、問1での回答を踏まえたあなたの考えを800字以上、1000字以内で述べなさい。

\*1 ひきこもり群とは、「ふだんどのくらい外出しますか」の問い合わせに対して、「近所のコンビニなどにはでかける」「自室からはでるが家からはでない」「自室からほとんどでない」と回答し、かつ現在の状況になって6ヶ月以上の者とする。ただし、精神的あるいは身体的な病気と回答した者、出産・育児をしていると回答した者を除く。

\*2 ひきこもり親和群とは、「ふだんどのくらい外出しますか」の問い合わせに対して、「趣味の用事の時だけ外出する」と回答し、かつ現在の状況になって6ヶ月以上の者とする。ただし、精神的あるいは身体的な病気と回答した者、出産・育児をしていると回答した者を除く。

非公開

図1 小・中学校時代の学校での経験

非公開

図2 小・中学校時代の家庭での経験

**非公開**

図3 自分にあてはまること 一会話について一

**非公開**

図4 自分にあてはまること 一生活への干渉について一

非公開

図5 不安と感じていることについて

## 平成24年度入学試験問題（後期日程）

### 小論文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

#### 出題の意図

1990年代半ばから若者のひきこもり現象の増加がみられ、現在、ひきこもり状態にある子どものいる世帯は、全国で約26万世帯と推計されている（ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン）。しかし、広義のひきこもり状態にある若者を含めると約70万世帯との指摘もあり、現代の思春期のひきこもりへの理解およびその支援は、社会問題として取り上げられている。そのため、ひきこもりをもたらす心性について考えることは、本コースの教育目標である人間理解に即した重要なテーマと考えられる。

今回の問題では、受験生が若者の小中学校時代の学校・家庭での経験および心理的特性から、ひきこもり群とひきこもり親和群の特徴について、どのように考察できるかを問う。さらに、本コースではグラフや表などの客観的なデータから問題の本質を読み取る能力を重視している。具体的には、以下の3点について問う。

1. ひきこもり群およびひきこもり親和群の特徴について、客観的な洞察力を問う。
2. 5つの調査結果から関連性を見いだす統合力を問う。
3. ひきこもり群およびひきこもり親和群の特徴を踏まえた上で、それぞれの群が引き起こす不安の要因について論理的かつ独創的な思考力を問う。